

【ASP 鍼刺鍼ガイド】

初めて ASP 鍼を扱うはり師の方へ

1) 目的と対象

目的: 即効性のある痛みの緩和を提供し、従来の薬物治療を補完または置き換えることが期待できる

対象: 急性及び慢性の痛み、手術後の痛み、外傷性ストレス障害（PTSD）や不安症状の緩和

2) 特徴及び注意点

ASP 鍼を使用した耳鍼療法である。施術後 2 日～1 週間鍼を刺したまま（留置）して効果を持続させる。

2 日～1 週間経過後に経過観察と抜鍼処置のため来院を指示する。

患家にて ASP 鍼が外れた場合は蓋の付いた容器に入れて回収を指示し医療廃棄物として適切に廃棄すること。

- ①一般的な留置鍼（円皮鍼・皮内鍼）に比べて、刺入する鍼が大きく、侵襲及び刺激量が大きい
- ②円皮鍼・皮内鍼に比べて体表に出ている部分が大きいため、掻く、擦る、押すなど ASP 鍼に触れると鍼先が動き、刺鍼部分の発痛、組織損傷、出血及び ASP 鍼が抜け落ちる場合がある
- ③体調や体質により、以下の症状（副作用）が出現することがある
 - ・感染、化膿、痒み、赤み、腫れ、暖かさ
 - ・鍼が挿入されたことによる痛み、出血
 - ・めまい、吐き気、失神、陶酔感
- ④抜鍼後に皮膚に傷跡が残る事がある
- ⑤心筋梗塞、脳梗塞、深部静脈血栓症、肺塞栓症などの持病がありワーファリン等の抗凝固剤を服用している者には施術できない
- ⑥刺鍼予定部位に皮膚病がある、人工弁の手術をした、血友病の患者には施術できない
- ⑦糖尿病患者への施術は注意を要する
- ⑧妊娠中または妊娠の可能性がある場合は主治医に相談する

3) 効果

施術効果には個人差があります。特に以下のような場合、効果が現れにくい、症状の「もどり」が早い、施術期間が長期に及ぶなどの可能性があります。

- ・身体の構造上の問題による痛み
- ・重篤な疾患による痛み
- ・強力な、あるいは多種の薬剤服用
- ・高齢・衰弱による生理機能の低下
- ・取り除けない物理的刺激要因（例）体内に異物が入っている場合など
- ・各種心理的要因

ASP セラピーの施術効果は強力ではありますが、万能ではないことをご承知おきください。

Acupuncture Today – April, 2009, Vol. 10, Issue 04 アメリカの鍼灸の専門紙で 75%の患者に疼痛の軽減があったと報告されております。

<https://www.acupuncturetoday.com/mpacms/at/article.php?id=31917>

なお、この報告によって効果を保証するものではありません。